

Speaker 黒澤 淳二 さん

皆さん「シン・BOUZ@大阪」に興味を持ってくださりありがとうございます。

先日、同僚の療法士との何気ない会話の中で、こんなやりとりがありました。

「テレビ番組で障害を負った方が前向きに生きている姿を見て、自分もそうありたいと思う一方、ネガティブになってしまう自分に落ち込んでしまうんです」と。

そして、「黒澤さんって、ポジティブとかネガティブというより、いつも中立的というか、多面的に物事を見ていて…どうしてそんなふうに考えられるんですか？」と聞かれました。

私は「年の功かな」と笑いながら、こんなふうに返しました。

「ネガティブに考えられるということは、ポジティブを知っているということ。ポジティブに考えられるということは、ネガティブを意識しているということ。だから、本当はどちらか一方だけで存在することはないと思うんです。」

「例えば、コインを思い浮かべてみてください。表があるから裏がある。表だけのコインは存在しませんし、そもそも『コインそのもの』がなければ、表も裏も生まれません。つまり、ポジティブであってもネガティブであっても、心が動いていることに変わりはない。その『心の動き』に、私は意味を見出したいと思っています。尊く、大切なことにしたいと思っています。存在そのものに価値を見出したい…そう考えています。」

このような視点は、臨床の中でも生きてくると思っています。私たちは、・末梢と中枢・感覚と運動・主動作筋と拮抗筋・周辺視と中心視 といった『対』になる視点で、日々の支援や評価を行っています。これはまさに、二元論的な考え方に通じるものではないでしょうか。

今回の研修では、そんな「二つの視点」から物事を考えることで、そして、実際にはこれらの（二元論的）仕組みが複数組み合わせあって…まさに子どもの障害や発達、現象をどのように説明・理解できるかを皆さんと一緒に探っていけたらと思っています。

初の試みなので、もしかすると少し迷わせてしまうかもしれません。ですが、その『迷い』こそが思考の出発点。大いに楽しみながら、一緒に考えていけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。